【水戸総局】水戸市南町２－５－24 榎沢本店ビル ☎029-227-4551
【仙台総局】仙台市青葉区上杉１－６－10 仙台北辰ビル ☎022-221-9211
ホームページアドレス…http://www.jcpress.co.jp
メールアドレス…jcp-chiba@jcpress.co.jp

千葉 全県版

©日本建設新聞社（2014年）（昭和41年11月16日 第３種郵便物認可）
日刊（日、月、祝日休刊）

日刊建設新聞

The Nikkan Kensetsu Shimbun

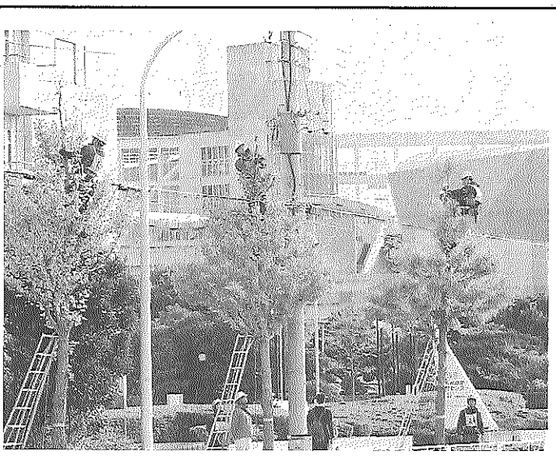
11月7日 平成26年 第120

発行所 日本建設新聞
千葉市中央区新田町5
電話043－203－8171
FAX043－203－6658

日造協県支部

40人が合格目指し真剣

街路樹剪定士 幕張で学科・実技試験



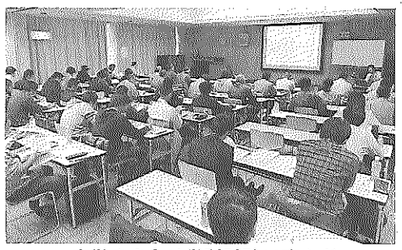
日本造園建設業協会千葉県支部（日造協、鈴木一彦支部長）は、千葉市美浜区の幕張勤労市民プラザとその周辺で今年度の街路樹剪定士の研修会と認定試験を実施した。5、6日の丸2日にわたるプログラムに40人が参加、合格・認定を目指して街路樹の剪定方法や病害虫など専門的な知識の学習とその試験、実際の街路樹を使った実技の試験へ真剣な眼差しで臨んでいた。

初日の5日には学科試験に先立つ研修会の冒頭で鈴木支部長があいさつ。自治体からも受講者が参加していることについて、研修会を通じて街路樹剪定士への理解を深めてもらうとともに「美しい街路樹づくりに協力、支援してほしい」と呼びかけた。

続いて、街路樹が美しいまちづくりに欠くことのできない存在であることを示すとともに、その剪定士の重要性を強調したうえで「基準を明確にし、さらなる技術向上を目的としたこの制度は、質の向上や技術・技能の伝承、街路樹のスペシャリスト育成に寄与している」と同協会の取り組みを説明。制度が広く周知されて剪定士の活躍の場が広がることに期待するとした。

「全員の合格を祈念する」と鈴木支部長

鈴木支部長はまた、造園業をめぐる経営環境が非常に厳しい状況にあることにも言及。発注要件として剪定士が位置付けられている自治体が増加しているとし「受講者にとってこの2日間が有意義なものとなってほしい」と述べ、全員の合格を祈念するとしてあいさつをまとめた。



座学のあとは学科試験に臨んだ

街路樹剪定士の受講資格は、▽1級造園技能士▽2級造園技能士で資格取得後2年以上の剪定業務経験者▽樹木の植栽工事または剪定業務に直接従事した実務経験が合計7年以上――のいずれか。初日は学科などの研修後にそのまま学科試験、2日目は2樹種を対象とした実技試験を実施する。

この後、講師の紹介を経てスタートした座学で受講者は、約60分ごとに第1～6講まで組まれたカリキュラムに挑戦。街路樹に関する基礎から剪定、病害虫、植栽基盤整備、ケーススタディ、安全衛生管理など各論について日造協の指導員らが担当ごとに講義。午後には屋外で剪定を終えた街路樹などをサンプルにした講習も実施し、その後は学科試験に移った。

慎重に高所での作業を進める

2日目の6日は実技試験を実施。試験を前に駆け付けた鈴木支部長も、作業中の安全確保を呼びかけるとともに、あらためて全員の合格に期待。続いて事務局や判定員から安全帯の使用など注意事項のほか当日のスケジュールなどが説明された。

実技試験では海浜幕張地区に植栽されている実際の街路樹を材料に、午前にイチョウ、午後にはプラタナスを対象に実技試験が進められた。

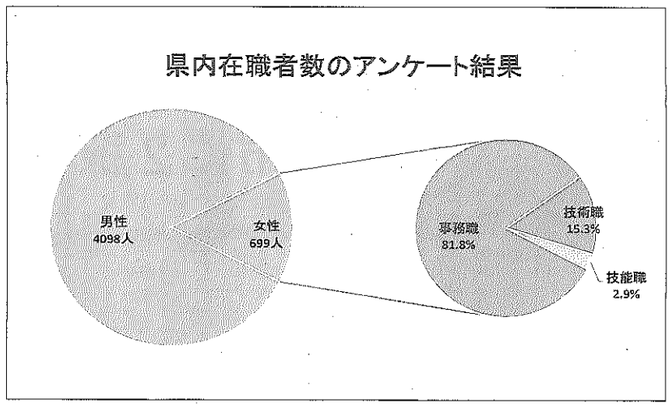
交通誘導員による交通規制も実施される中、1人に1本ずつ街路樹が割り当てられた受験者らは合図とともに一斉にはしごを駆け登り、真剣な眼差しで課題木の剪定を開始。手ノコやハサミを使って樹勢や樹種に適した樹形に整えるだけでなく、作業中の安全確保など詳細に至るまで同協会の本部主任判定員や支部判定員の厳しい目によりチェックされた。

街路樹の剪定は樹種のほか、植栽桝などから必要以上に根がはみ出さないように注意を払いながら実施する。イチョウは円錐状、プラタナスは球状または円柱状にまとめることが必要で、担当者の経験や知識などが問われるという。

街路樹剪定は美しいまちづくりにおいて欠かすことのできない技術。日本造園建設業協会では剪定基準を明確にし、技術力を向上させるため、平成11年に「街路樹剪定士認定制度」を発足。資格試験合格者に対して「街路樹剪定士」の資格を認定している。

認定された街路樹剪定士は、▽街路樹に関する包括的な視野▽剪定▽病害虫▽植栽基盤整備▽安全衛生管理――などの知識と、伝統的な職人芸とも言える技能を併せ持った「スペシャリスト」と呼べる存在となる。

県内在職者数のアンケート結果



職員であることや、ここ1年に採用した社員の約14%が女性であることなどが分かった。

今回の調査は、9月1日時点の状況について、9～10月にかけて47都道府県の全会員企業に対して実施。このうち38協会が回答した。

回答社員数26万3050人のうち、女性社員は3万2658人（12・4%）。職種別にみると、技術者が15万3033人（うち、女性社員3・5%）、技能者が3万9212人（同2・4%）、事務職が6万3212人（同41・5%）であった。

女性社員3万2658人の内訳は、技術者が16・7%、技能者が2・9%、事務職が80・3%）その他が0・2%。また、全社員に対する女性社員の割合は、技術者が2・1%、技能者が0・4%、事務職が10・0%だった。

最近1年間の社員採用状況については、6558社から回答を得ており、このうち57・6%が社員を採用していると回答。採用した1万8235人のうち、女性社員の割合は14・3%（2590人）となっており、内訳は技術者が15・3%、技能者が3・2%、事務職が81・5%だった。

本県でもアンケート調査を実施しており、2322社が回答した。回答率は44・9%。それによると、回答社員数4797人のうち、女性社員は699人（14・6%）となっており、全国平均より2・2ポイント高いことが分かった。

全社員を職種別にみると、技術者が2919人（うち、女性社員107人）、技能者が909人（同20人）、事務職が923人（同601人）であり、技術者と技能者は概ね全国平均と同等、事務職は、技術者が15・3%、技能者が2・0%、事務職者が86・0%。また、全社員に対する女性社員の割合は、技術者が2・2%、技能者が0・4%、事務職者が12・5%だった。

最近1年間の社員採用状況については、2331社から回答を得ており、

身近な建設業へ興味を

いすみ市の小学校で 児童65人が建機体験

建協青年部会、CCIちば

大多和部会長

県建設業協会青年部会（大多和正之部会長）は5日、千葉県魅力ある建設事業推進協議会（CCIちば）と共催で、今年度第2回目の建設機械体験学習会を、いすみ市の中川小学校で開催した。当日は、1年生から6年生までの全校児童の約65人が参加し、興味と不安を交えながら初めての操作を楽しんでいた（3面に関連記事）。

小高所長

建設機械体験会は、日ごろ街中で見かける建設重機に乗車し、直接触れることで、建設業への理解や関心を深めてもらうことが目的。若者の入職数減少が危惧される建設業界において、将来の職業選択時に建設業を思い浮かべてほしいと期待し、県内各地の小中学校で開催している。

初回は、平成5年10月の富津市立天羽中学校。以降、今年6月の匝瑳市立豊栄小学校までに23回実施している。

今回の体験会には、県内各支部の青年部会員11人と、地元の夷隅支部（吉清信夫支部長）会員22人の計33人が参加したほか、キャタピラージャパンも建設機器の提供などで協力。児童たちが楽しんで重機を体験する姿を温かく見守った。

緊張しつつも重機の操縦を楽しむ児童

当日は、▽油圧ショベル2台▽振動ローラー2台▽高所作業車（作業床高さ12m）――の計5台を用意。1年生から6年生までの全校児童が担当者と一緒に乗車し、各パーツの説明などを受けた後、オペレーターの指示に従って実際に操作・操縦を楽しんだ。

油圧ショベルはアームを動かして掘削したほか、振動ローラーは前進・後退のあと、車体を振動させるなどの操作を体験。最初は恐る恐る動かしていた児童達も最後は楽しそうに笑顔となり、名残惜しそうに降車していた。

各学年を通じて最も人気があったのは高所作業車。児童たちはヘルメットや安全帯を装備した後、目を輝かせながらプラットフォームへ乗車。ゆっくりと作業床の高度が上がっていくと「わーっ」と大きな歓声を上げながら、順番を待つ友達や先生たちに手を振っていた。

各建機を体験した児童たちは、大きさや迫力に驚きと興奮を残しながら「楽しかった。また乗りたい」と感想。特に印象に残ったのは、高所作業車に乗る前、怖さから大泣きしていた女の子が上昇するにつれ、笑顔いっぱいで楽しんでいた姿だった。

更に大幅値下げしました

解体工事ならおまかせく